

## &lt;別紙1&gt;

## 第三者評価結果報告書

## ①第三者評価機関名

よこはま地域福祉研究センター

## ②施設・事業所情報

|                     |  |
|---------------------|--|
| 名称：横浜市東滝頭保育園        | 種別：保育所   |
| 代表者氏名：綿貫 麻美         | 定員（利用人数）：本園106名 分園18名 計124名                      |
| 所在地：横浜市磯子区滝頭2-31-32 |  |
| TEL：045-753-2201    | ホームページ：  |
| 【施設・事業所の概要】         |  |
| 開設年月日 昭和50年7月1日     |  |
| 経営法人・設置主体（法人名等）：横浜市 |  |
| 職員数                 | 常勤職員： 26名<br>非常勤職員 49名                           |
| 専門職員                | （専門職の名称） 名<br>保育士及び保育補助 67名 調理員 7名               |
| 施設・設備の概要            | （居室数）<br>保育室 8<br>（設備等）<br>調理室 事務室 予備室 園庭 プール など |

## ③理念・基本方針

子どもが現在を最も良く生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う

- ・子どもを主体として、思いや願いを受け止めます。
- ・各年齢の保育目標を進めると同時に、一人ひとりの発達状態に応じた保育をします。
- ・子どもたちがともに認め合い、成長し合えるようにします。
- ・地域の人との交流を大切にし、子どもたちの健やかな成長と発達を援助します。
- ・保護者の安心、信頼、親しみを得て、子どもたちが楽しく過ごせるようにします。

## ④施設・事業所の特徴的な取組

- ・0歳児から就学前の子ども達が生活や遊びを共にしています。クラスは年齢別になっていますが異年齢児との交流も大切にしています。
- ・畑があり、年間を通して様々な野菜を育てています。収穫した野菜でクッキングをしたり、昼食に出してもらうなど、食育活動も楽しく取り組んでいます。
- ・地域の方々や、小学校、中学校、幼稚園、他の保育施設と交流を持ち、様々な人との触れ合いの中で、子どもたちの成長を大切にしています。
- ・近隣に公園が多くあり、四季折々の自然に親しみながら散歩を楽しむことができます。
- ・分園は、1歳児と2歳児の2クラスで、年齢別になっています。クラス間の交流や本園との交流も大切にしています。
- ・本園のプランターで、年間を通して様々な野菜を育てています。水やりをしたり、収穫した野菜を昼食に出してもらうなど、食育活動も楽しく取り組んでいます。

⑤第三者評価の受審状況

|               |   |
|---------------|---|
| 評価実施期間        | 2021年 7月 14日（契約日）～<br>2022年 2月 28日（評価結果確定日） |
| 受審回数（前回の受審時期） | 2 回（ 2016年度）                                |

⑥総評

◇特に評価の高い点

**◆子ども達の興味・関心に合わせて環境が整えられ、子ども達は主体性を発揮しながら遊びを楽しんでいます。**

保育室は、ロッカーなど子どもの目線に合った造りで、取り出しやすく、また玩具の写真が貼ってあり、どこに何があるのか、どこに片づけるのか分かりやすくなっています。子ども達は、そこから自分で遊びたいと思うものを選んで、集中して遊んでいます。手作り玩具や制作に使う廃材もたくさんあり、発達に沿った遊びができるよう環境が整えられています。子ども達は、園の中で自分の落ち着ける場所を見つけていて、それが保育士の膝の上であったり、保育室の棚と棚の間であったり、全体的に落ち着いた雰囲気の中、穏やかに生活をしています。子ども達に「何をやりたいか」と問いかけ、子ども達から声があがった「お店屋さんごっこ」などを、子ども達自身が計画し、話し合いをしながら準備をすすめるよう支援しました。子ども達の声を拾いながら行事を組み立てるなど、常に子ども達の主体性を大切にしながら保育をしています。

**◆園で子どもに関わる職員たちは、「子ども達のために」学びの姿勢と向上心があります。**

職員が、研修や会議などで子どもの姿に寄り添う保育を心掛け、実践を振り返り研鑽を重ねています。保育にあたり、「子どもにとってどうか」というところで判断するようにし、日々の自己評価から週案月案へとPDCAサイクルを回し、常に職員は子ども達の健やかな育ちのために意欲的に質の向上に取り組んでいます。地域の横浜市営バス操車場の所長から、イルミネーションバスの体験の申し出にも即座に対応するなど、子ども達の体験の機会を逃さないよう、まず子ども達のことを考えて対応しています。また、今回の第三者評価の受審については、職員一人ひとりが日頃の保育や自分の保育観を振り返り、互いに意見を出し合い、それを可視化して職員全体で共有しました。そのことにより、また職員の意識が変わり、気づきが生まれ、新たな課題を共有するきっかけとなりました。

**◆地域住民と地域社会に見守られながら、園と子どもたちは地域にも元気を与えています。**

地域の住民や社会資源と積極的に関わっています。園の周りの清掃時や子ども達の散歩の際は、地域の住民に積極的に挨拶をし、地域の公園愛護会等の方々や公園や園内の花壇に花を植えたり草むしりをしたりしています。園庭に磯子区の土木事務所の方々が作ってくれたフラワーツリーの展示、横浜市営バスの体験乗車、市電保存館に子ども達の絵を展示など、地域の社会資源とのつながりを深めています。運動会はコロナ禍で様々な制限の中で5歳児のみの実施となりましたが、近隣のマンションに「輝け！未来のヒーロー」という垂れ幕が住民のご厚意で掲げられました。地域の中での園と子ども達が、日ごろから見守られ、また園と子ども達の存在が地域の方々に元気を与えているということが感じられる出来事でした。また、地域の子育て家庭の仲間づくりの場として「どんぐりルーム」を新たに開設するなど、園の保護者だけでなく地域の子育て家庭の支援にも積極的に取り組んでいます。

◇改善を求められる点

**◆課題や情報の共有方にさらなる工夫が期待されます。**

日々の連絡はメンテ表やノート、会議や研修で保育内容等を共有し、玄関ホールには掲示板を設置して、どのクラスの動きなども、保護者とだけでなく保育者間でも共有できるように様々な工夫をしています。しかし、職員数が多く、勤務形態の異なる職員が勤務している状況のなかでは、園全体としての姿勢や、運営などについて等しく理解することは難しい状況があります。園としても職員間の情報共有や人材育成、話し合う時間の確保などを課題として捉えており、話し合う時間を生み出す工夫やより技能や意識を高めるための研修への派遣等について取り組むことが期待されます。

**◆施設の老朽化について検討していくことが期待されます。**

園舎は古さを感じさせますが、丁寧に使用され、清潔感も保っています。しかし、今の保育環境にそぐわないところもあり、現施設でできる範囲のさらなる工夫が期待されます。施設の老朽化への対応は、横浜市の方針や予算との兼ね合いで、園独自でできることは限られています。職員や保護者の意見も取り入れながら、プライバシーへの配慮や安全面の確保、また送迎のしやすさなどの工夫について検討していくことが望まれます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

新型コロナウイルス感染症の拡大が止まらず、保育現場は昨年以上に感染対策や度重なる行事の変更などを行い、園関係者の命を守る取り組みに終始する一年となりました。

子どもの最善の利益を第一にした保育の実現に向けて、常に保育の質の向上をしていくことが大切で、毎年、保育所の自己評価を行っています。今年度は5年ごとの第三者評価も受審し、日々の保育を客観的に評価していただき、保育の質を高め、時代のニーズに合った保育を提供できるように全職員で取り組みました。

前回、平成28年度に受審した時とは職員も入れ替わり、新しい職員が多くなりました。評価項目も45項目と内容評価20項目という新しい評価項目となり、全職員が65項目の自己評価を行い、全職員で共有する過程を通して、より深く園全体の事や保育を理解し課題を共有することに繋がりました。

保護者の方々には、保護者アンケートの従来の紙面での提出ではなく、Webでの新しい試みにご協力ありがとうございました。貴重なご意見や要望を今後活かしていきたいと思えます。評価機関の方々には、緊急事態宣言やまん延防止等措置が出される中、2日間に渡る訪問調査で共に考える視点で丁寧にみていただき、ありがとうございました。

今回、高く評価していただいた点は、引き続き継続しより向上して行けるようにし、課題となった点は、さらなる工夫や検討をして改善に向けて取り組んでいきたいと思えます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり